



HPV「キャッチアップ接種」
2025年3月まで
平成9～19年度生まれの女性対象

大切なお子さんを守る子宮頸がんワクチン

27歳までの無料接種は今だけ！

■ 子宮頸がんは、マザーキラー！？

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、主に性交渉によって生殖器やその周辺の粘膜にイボをつくるウイルスで、子宮頸部（子宮の入り口部分）に感染すると子宮頸がんに進行することがあります。自覚症状はなく、女性の約80%が知らない間に感染していると推定されています。日本では毎年約1.1万人が子宮頸がんにかかり、約2,900人が亡くなっています。主ながんは中高年以上で増加しますが、子宮頸がんは20代前半の発症者もあり、30～40代までの若い患者が増加しています。子育て世代に多いことから、マザーキラーともいわれます。30代までに治療の過程で子宮を失う人も年間約1000人いると考えられており、手術やその後遺症でライフプランが大きく代わってしまう可能性があります。

■ 子宮頸がん予防は二本の矢で

一の矢：HPVワクチン

2021年から厚生労働省はHPVワクチンの接種推奨を再スタートすることに決定致しました。国内外の研究結果から、改めてワクチンの安全性や、接種による子宮頸がんの予防効果などのメリットが副反応などのデメリットよりも上回ることを確認して、皆さまに接種をお勧めしています。特に、セクシャルデビュー前にワクチン接種することで、子宮頸がんの原因の80～90%を占めるウイルスへの感染を、ほぼ100%予防することができます（9価ワクチン）。世界では、110カ国で公的な予防接種が行われており、2019年のカナダ、イギリス、オーストラリアの接種率は80%を超えています。日本では子宮頸がんの罹患率・死亡率が先進国で最も高い水準になっている一方で、オーストラリアでは2028年には新規の子宮頸がん患者がほぼいなくなるとのシミュレーションがなされています。

ワクチン接種後広範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさなどの症状が起きたとの報告がありましたが、これはワクチン接種とは関係なく思春期の女の子に一定数みられる症状であることが最近の研究で明らかとなっています。保護者の方だけでなく、お子さま自身にもワクチンの効果とリスクについて理解を深めて頂き、接種をご検討ください。

二の矢：子宮頸がん検診

子宮頸がん検診は、20歳から、1～2年に1回定期的に受診することが大切です。一般的な検診では、子宮頸部の細胞を採取して異常の有無を調べる検査です。定期検診は、職場や市町村で実施していますので確認しましょう。

■ 子宮頸がんワクチンの接種を推奨します！

岡山大学病院・感染症内科ではHPVワクチン(子宮頸がんワクチン)の接種を推奨しています。現在、小学校6年生～高校1年生の女性に定期接種として導入されているHPVワクチンですが、過去に接種機会を逃した女性を対象に「キャッチアップ接種」の制度(公費として原則自己負担なし)が設けられています。キャッチアップ接種は令和7年3月までの特例措置で、3回接種完了までに6カ月かかります。キャッチアップ接種をお考え方はお急ぎください！

定期接種の対象者

- ① 小学6年生～高校1年生相当の女子
- ② 高校2年生相当～平成9年度生まれ(27歳)までの女子のうち、過去にHPVワクチンを合計で3回接種していない方（令和7年3月までの特例措置）

上記①②以外は有料（9価ワクチンの場合3回接種で自己負担約9万円）

HPVワクチンに関して不安や疑問、困ったことがあるとき

岡山県保健医療部疾病感染症対策課 電話 086-226-7331
岡山県教育庁保健体育課 電話 086-226-7591

予防接種による健康被害の相談

お住まいの市町村の予防接種相談窓口にお問い合わせください。

予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関

岡山大学病院産科婦人科 電話 086-223-7151（代表）
川崎医科大学附属病院産婦人科 電話 086-462-1111（内線23630）